

ZENRIN

証券コード：9474

2018年3月期 決算説明会

2018年5月18日

株式会社 ゼンリン
Maps to the Future

代表取締役社長

高山 善司

代表取締役副社長

網田 純也

執行役員コーポレート本部長

戸島 由美子

1. 2018年3月期 決算概要

2. 2019年3月期 業績予想

3. 事業概況

4. Appendix

注)本資料には、本資料作成日時点で入手可能な将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済の動向・市場需要・競合状況・為替の変動等にかかわる様々なリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性がありますことをご承知おきください。

尚、本資料掲載情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位四捨五入し小数点第1位まで記載しております。
また、増減率が1000%を超える場合、及び一方若しくは両方がマイナスとなる場合は「－」表記しております。

1. 2018年3月期 決算概要

- 1) 決算概要
- 2) 営業利益増減要因(前期比)
- 3) 中長期経営計画(ZGP2020)で区分した事業別売上高
- 4) セグメント情報
- 5) キャッシュ・フロー推移
- 6) 資本政策及び株主還元(株式分割・自己株式取得・配当金)

1-1)決算概要

2018年3月期 決算のポイント

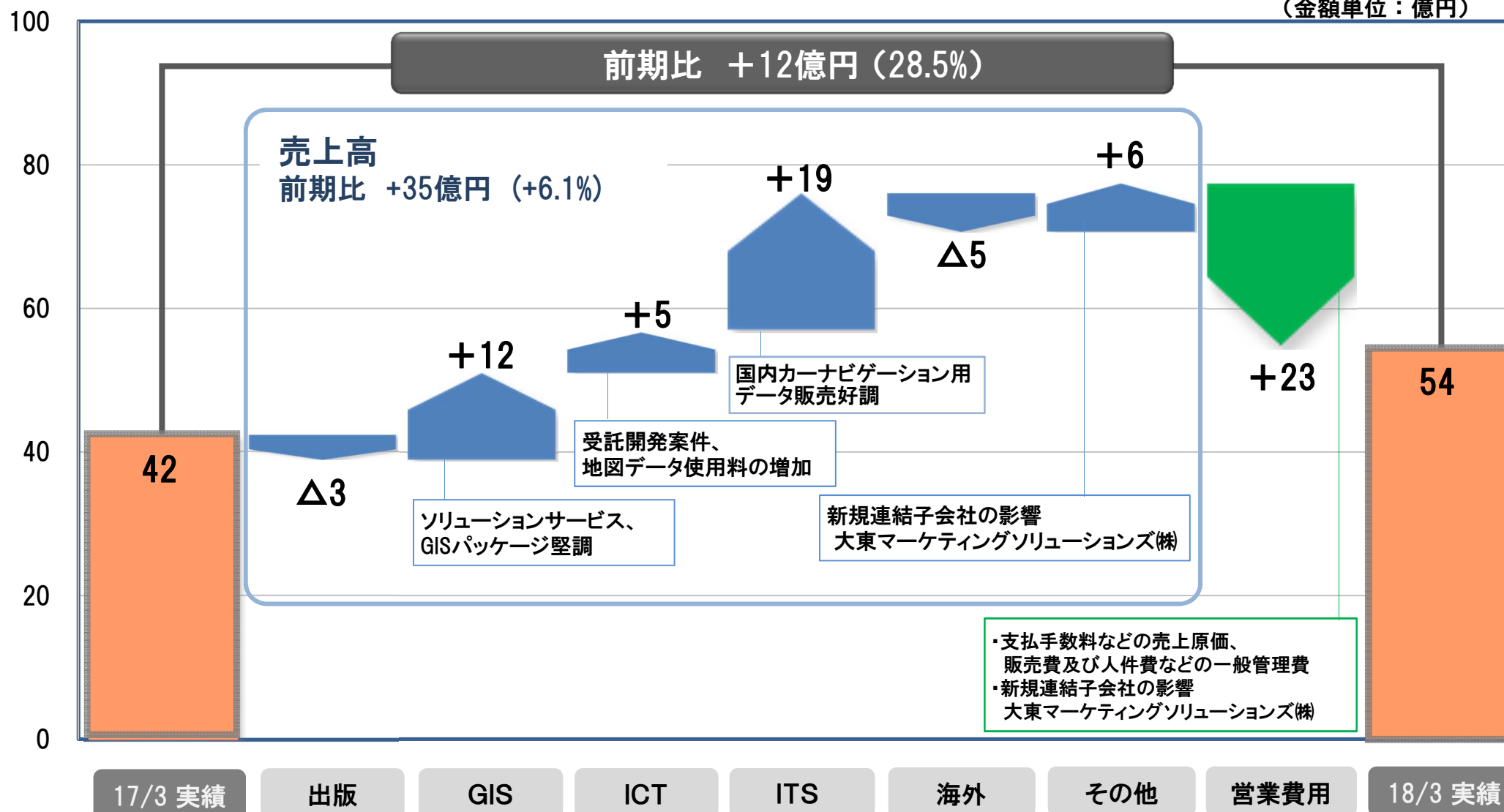
前年同期比＜増収増益＞

- 売上高は3期連続増収の過去最高を更新
営業利益、経常利益も3期連続増益。親会社株主に帰属する当期純利益は4期連続増益
- 国内カーナビゲーション用データの販売が好調、GIS関連の売上も堅調に推移
- 増収に伴う支払手数料などの売上原価の増加に加え、販売費及び人件費などの一般管理費も増加

(金額単位:百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	2018年3月期 実績	前期比	増減率 (%)	予想比	増減率 (%)
売上高	57,819	60,000	61,332	3,512	6.1	1,332	2.2
営業費用	53,584	55,500	55,890	2,305	4.3	390	0.7
営業利益 営業利益率	4,234 7.3%	4,500 7.5%	5,441 8.9%	1,207 1.6pt	28.5	941 1.4pt	20.9
経常利益	4,527	4,700	5,863	1,335	29.5	1,163	24.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,462	2,700	3,336	874	35.5	636	23.6

1-2)営業利益増減要因(前期比)

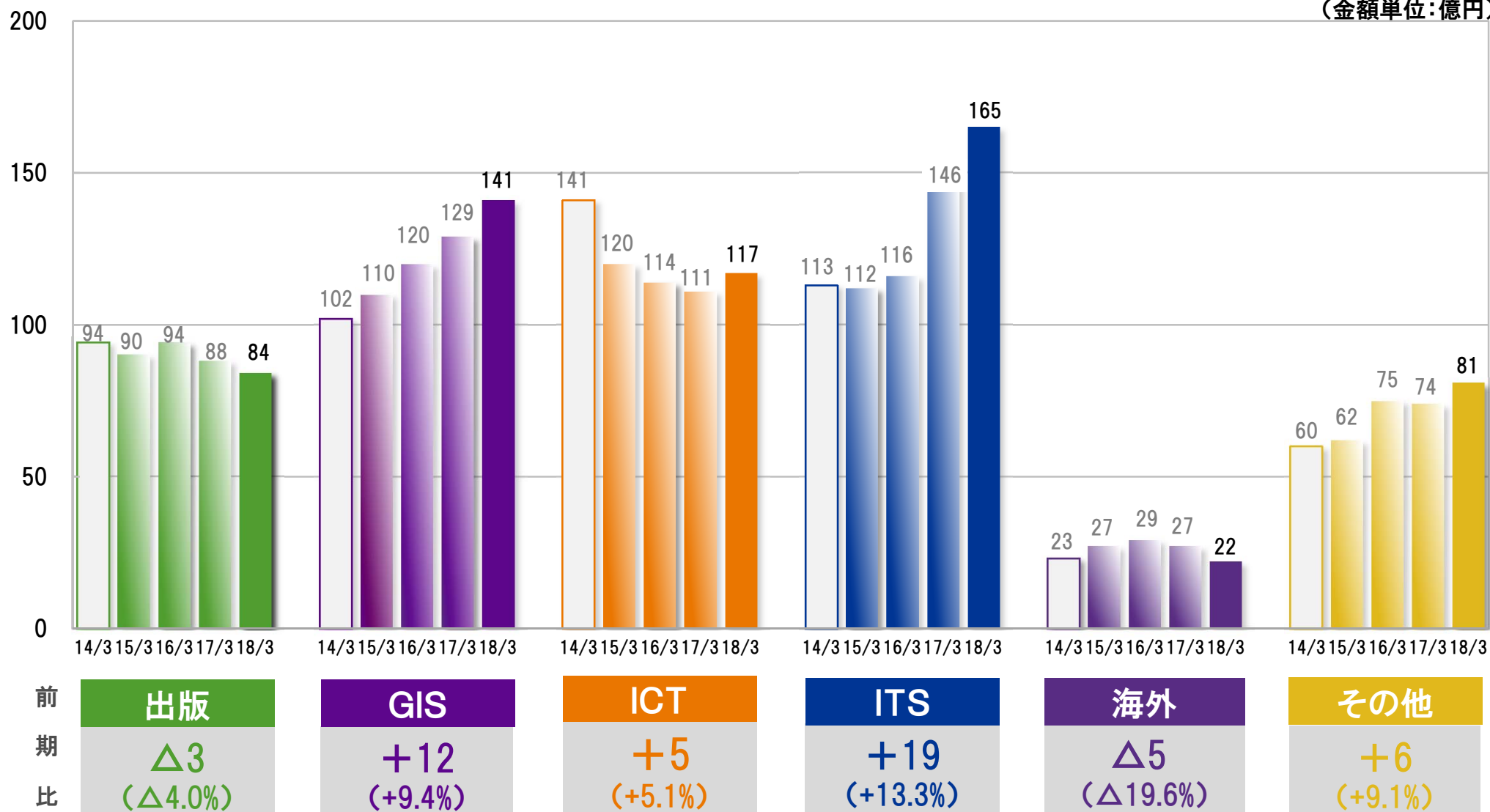


1-3)中長期経営計画(ZGP2020)で区分した事業別売上高

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future

(金額単位:億円)



※2014年3月期(白抜き棒グラフ)はZGP2015の事業区分で集計した売上高

1-4)セグメント情報

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future

売上構成
比率

83.7%

1. 地図データベース関連事業

主要品目等：住宅地図帳、住宅地図データベース
国内外カーナビ用地図データ
スマートフォン向けサービス
各種メディア・デバイスへの地図情報提供など



6.1%

2. 一般印刷関連事業

主要品目等：商業印刷



10.2%

3. その他

主要品目等：仕入商品、デジタルサイネージ、
マーケティングソリューションの提供

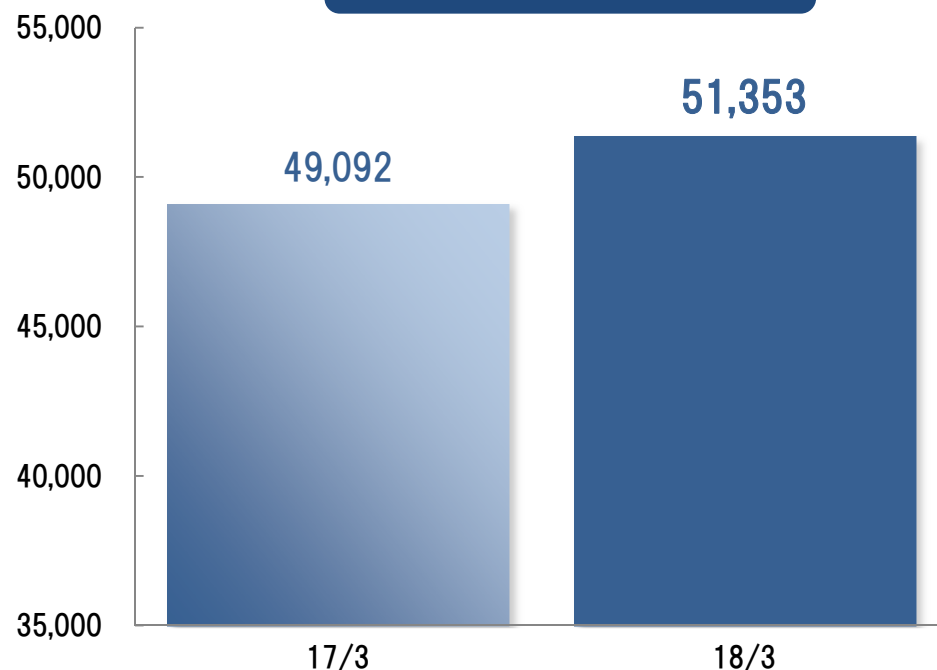


1-4)地図データベース関連事業

売上高

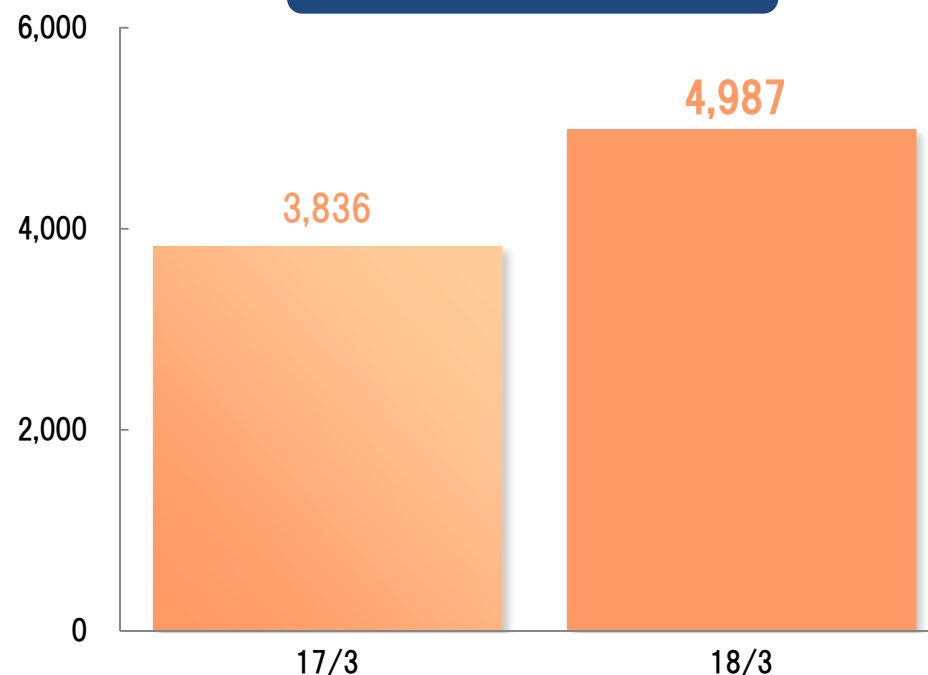
前期比

2,260増加 (+4.6%)



営業利益

1,150増加 (+30.0%)

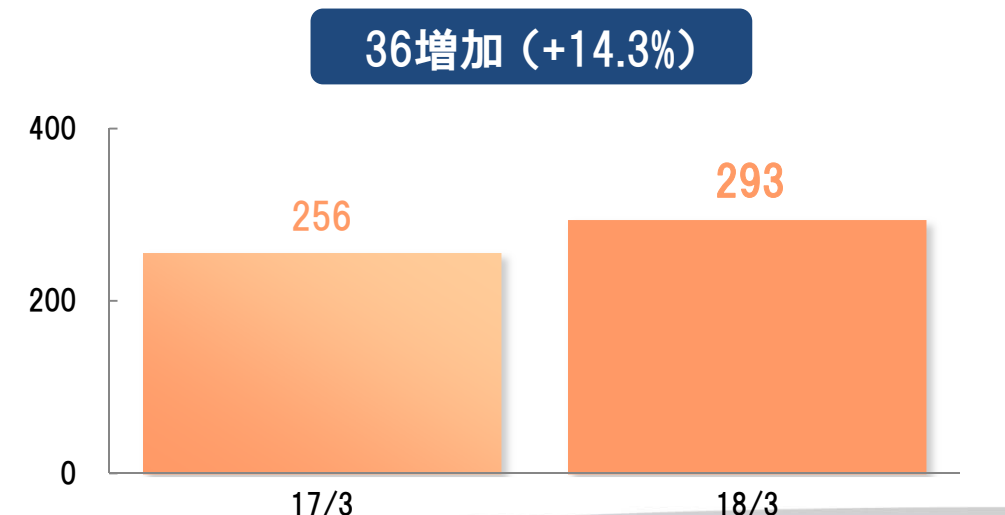
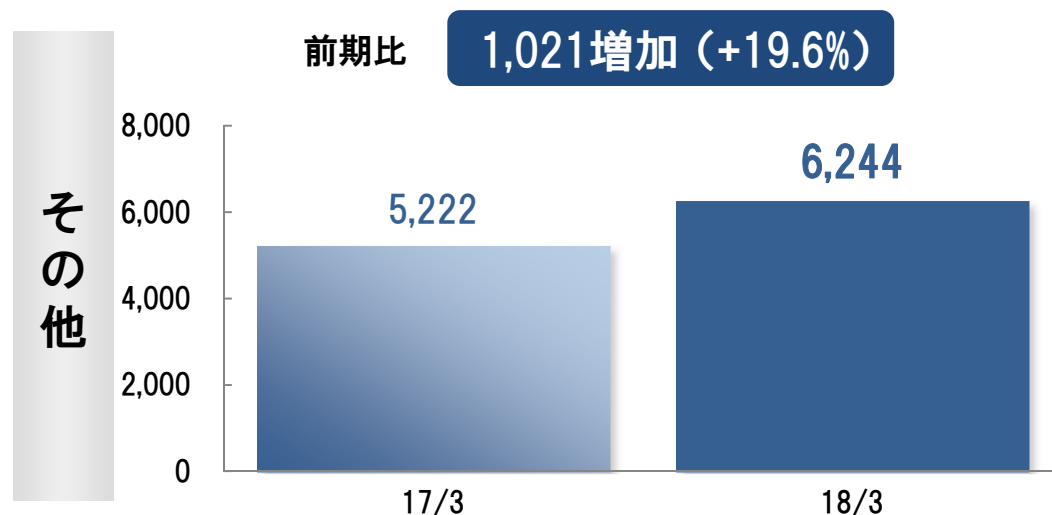
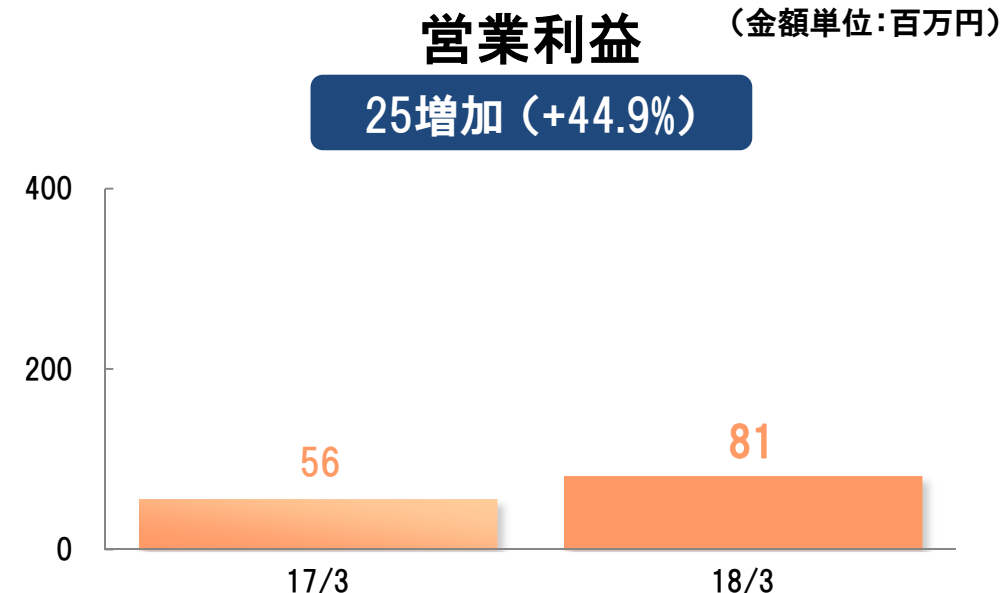
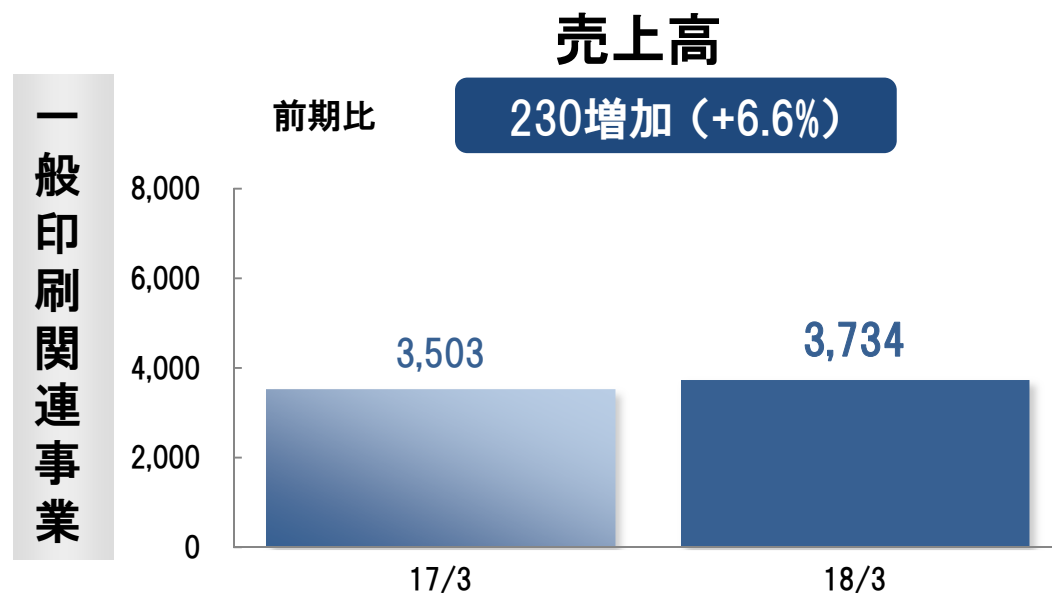


- 国内カーナビゲーション用データの販売が好調、GIS関連の売上も堅調に推移
- 支払手数料などの売上原価、販売費及び人件費などの一般管理費が増加したものの、増収効果により増益

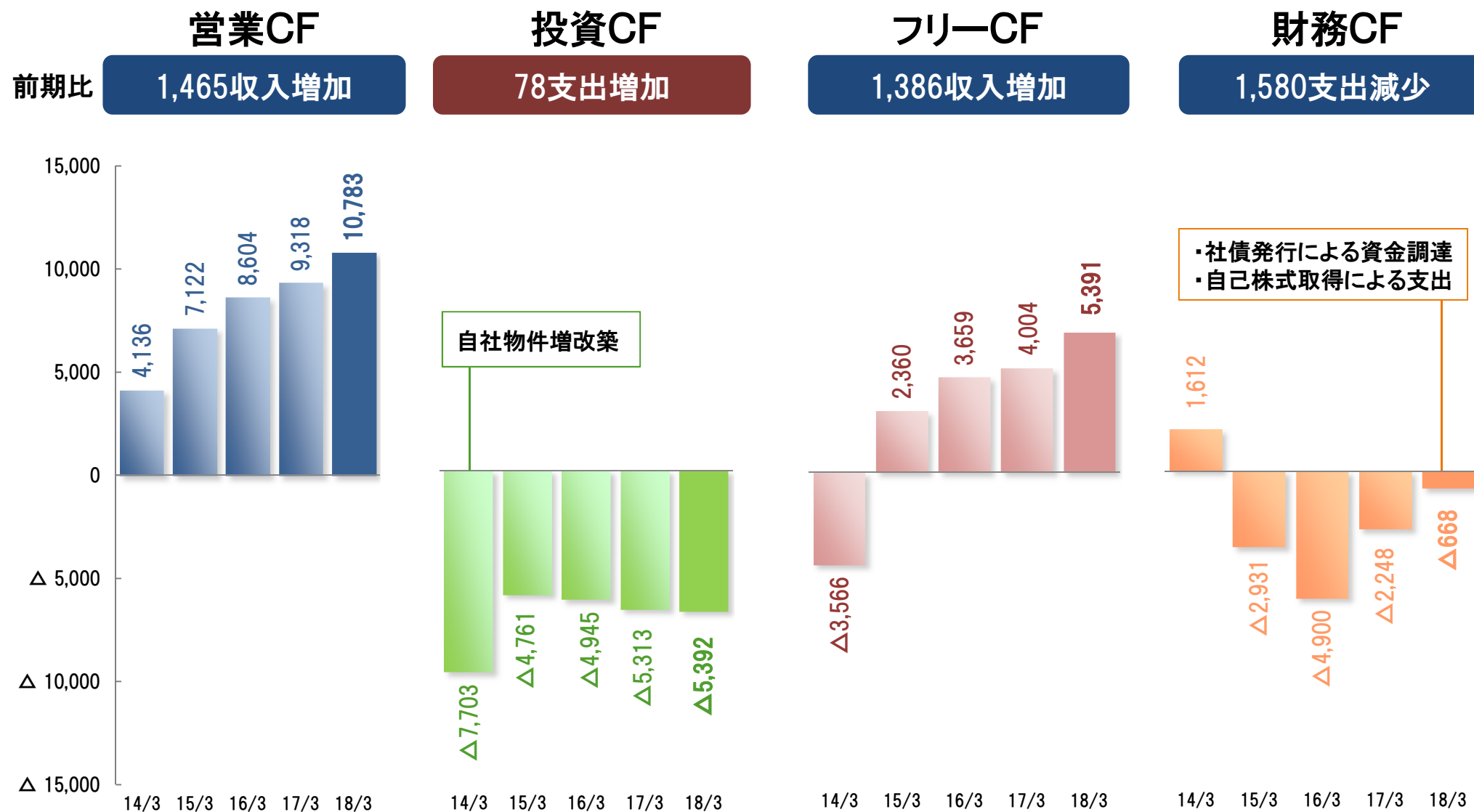
1-4)一般印刷関連事業・その他

2018年3月期 決算説明会

(金額単位:百万円)



1-5) キャッシュ・フロー推移



1-6)資本政策及び株主還元(株式分割)

目的及び内容(2018年1月29日開示)

<目的>

■株式の流動性の向上と投資家層の拡大

<内容>

■1月29日開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更について決議

■普通株式1株につき1.5株の割合をもって分割

(基準日:2018年3月31日、効力発生日:2018年4月1日)

■株式分割に伴い、当社定款第6条の発行可能株式総数及び発行可能優先株式総数を1.5倍に変更
(効力発生日:2018年4月1日)

分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	38,200,910株
今回の分割により増加する株式数	19,100,455株
株式分割後の発行済株式総数	57,301,365株

分割に伴う定款変更 (発行可能株式総数)

株式の種類	現行定款	変更後定款
普通株式	134,000千株	201,000千株
第1種優先株式	67,000千株	100,500千株

※現在、第1種優先株式は未発行

1-6)資本政策及び株主還元(自己株式取得及び資金調達)

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future

目的及び内容(2018年3月7日開示)

<目的>

■機動的な資本政策の遂行と、資本効率の向上及び株主還元の強化

<内容>

■3月7日開催の取締役会において、自己株式の取得とその資金調達を目的とした社債発行決議

■株式の種類及び総数: 普通株式 2,300,000株(上限)

※株式分割効力発生以降 3,450,000株(上限)

■取得価額の総額 : 80億円(上限)

■取得期間 : 2018年3月8日～5月31日

2018年4月末までの実施状況

2018年3月8日～31日 (ToSTNeT-3による買付)	1,501,800株 (1,256,800株)
2018年4月1日～30日	0株
計	1,501,800株

※株式分割効力発生以降 2,252,700株

社債発行による自己株式取得資金の調達 (2023年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債)

社債総額	8,240百万円
社債の払込期日及び発行日	2018年3月23日
新株予約権行使期間	2018年4月6日～2023年3月17日
社債償還期限	2023年3月31日

1-6)資本政策及び株主還元(配当金)

基本方針

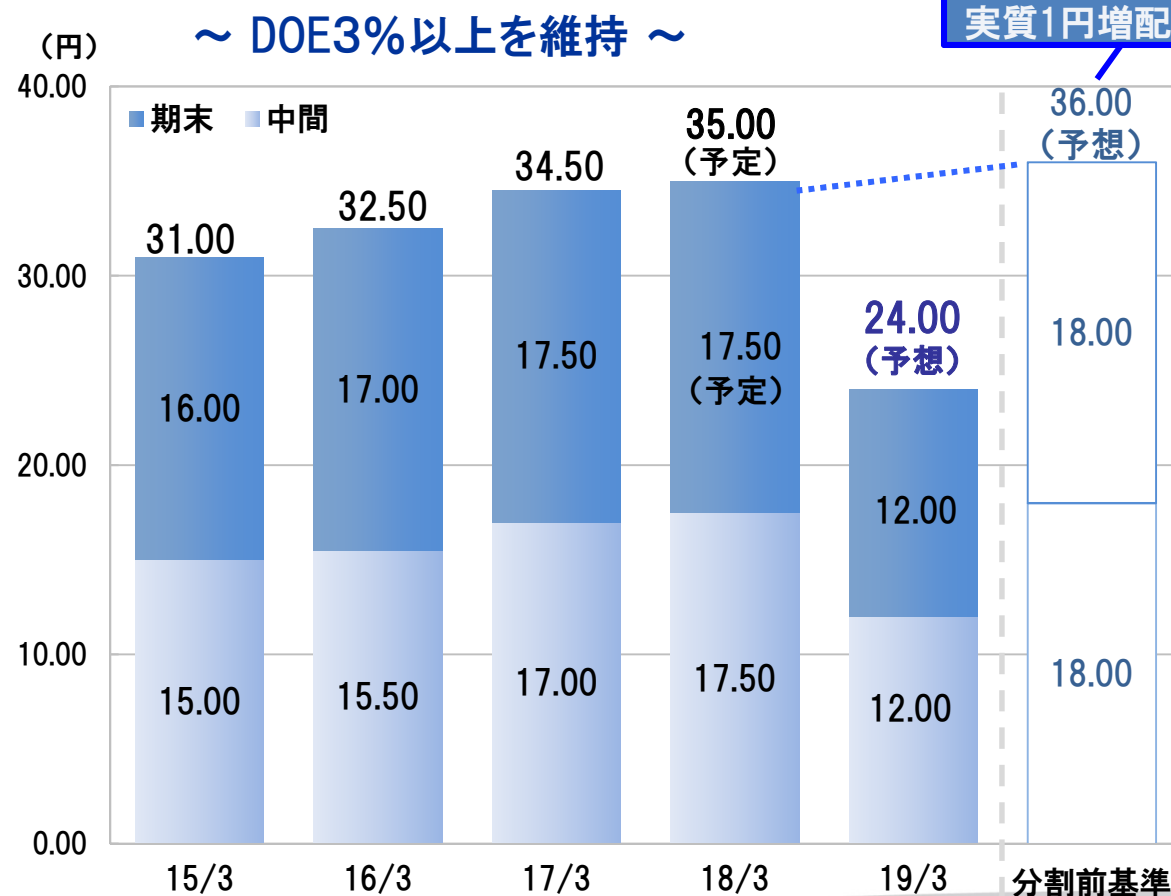
適正な内部留保を考慮しつつ、中長期経営計画における利益成長に基づいた利益還元を実施
連結株主資本配当率(DOE)3%以上を目標

2018年3月期配当金 (前期比)

中間	17円50銭 (+50銭)
期末(予定)	17円50銭 (-)
年間(予定)	35円00銭 (+50銭)

2019年3月期配当金 (株式分割前基準)

中間(予想)	12円00銭 (18円00銭)
期末(予想)	12円00銭 (18円00銭)
年間(予想)	24円00銭 (36円00銭) ※株式分割前基準では1円増配



2. 2019年3月期 通期業績予想

1) 通期業績予想

2-1)通期業績予想

2019年3月期 通期業績予想について

前期比＜増収増益＞

次期中期経営計画を見据え、新たな事業区分に基づいた事業戦略再編

- 既存ビジネスによる収益確保
- ADAS、IoT、マップデザインビジネスなど新規ビジネスの収益化
- 時空間情報システムの安定運用と商品開発

(金額単位:百万円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	前期比	増減率(%)
売上高	61,332	64,000	2,667	4.3
営業費用	55,890	58,200	2,309	4.1
営業利益 営業利益率	5,441 8.9%	5,800 9.1%	358 0.2pt	6.6
経常利益	5,863	6,200	336	5.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,336	3,700	363	10.9

3. 事業概況

1) ZGP2020進捗

2) 新事業区分と重点施策

- 事業区分の見直し
- 事業別売上高(実績/予想)
- 新事業区分と重点施策

3) 時空間情報システムを活用した商品/サービス基盤の開発

3-1) ZGP2020 進捗

	ZGP2020 実績と目標値				
	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想	2020年3月期 目標
連結売上高	549億円	578億円	613億円	640億円	700億円
連結営業利益 (利益率)	30億円 (5.5%)	42億円 (7.3%)	54億円 (8.9%)	58億円 (9.1%)	100億円 (14.2%)
ROE (自己資本当期純利益率)	4.0%	6.0%	8.2%	9.4%	12%以上
DOE (連結株主資本配当率)	3.0%	3.1%	3.2%	3%以上	3%以上

2018年3月期 の進捗/評価

- ・GISパッケージやGISソリューション強化により安定収益確保
- ・国内カーナビゲーション用データシェア向上によるITS事業の収益拡大
- ・ADAS関連の取引継続、ドローンの実証実験実施

次期中期経営計画 に向けた取り組み

- ・収益化の早期実現を目指し、新事業区分の設定
- ・時空間情報システムを活用した商品/サービス基盤の開発
- ・生産性向上施策の継続実施

3-2)事業区分の見直し

従来の
事業区分

出版

GIS

ICT

ITS

海外

その他

事業環境の変化

モノ消費からコト消費へ

社会情勢の変化への対応と
行政サービスの質の向上

消費満足度が
機能的価値から感性的価値へ

自動車業界は地域、業界を超えた
新たな競争環境へ

IoTによる位置情報サービスの登場で
GISがIoTの領域に進化

マーケティング3.0/4.0時代へ

次期中期経営計画を見据えた事業区分へ

2019年3月期からの事業区分

プロダクト

公共ソリューション

マップデザイン

オートモーティブ

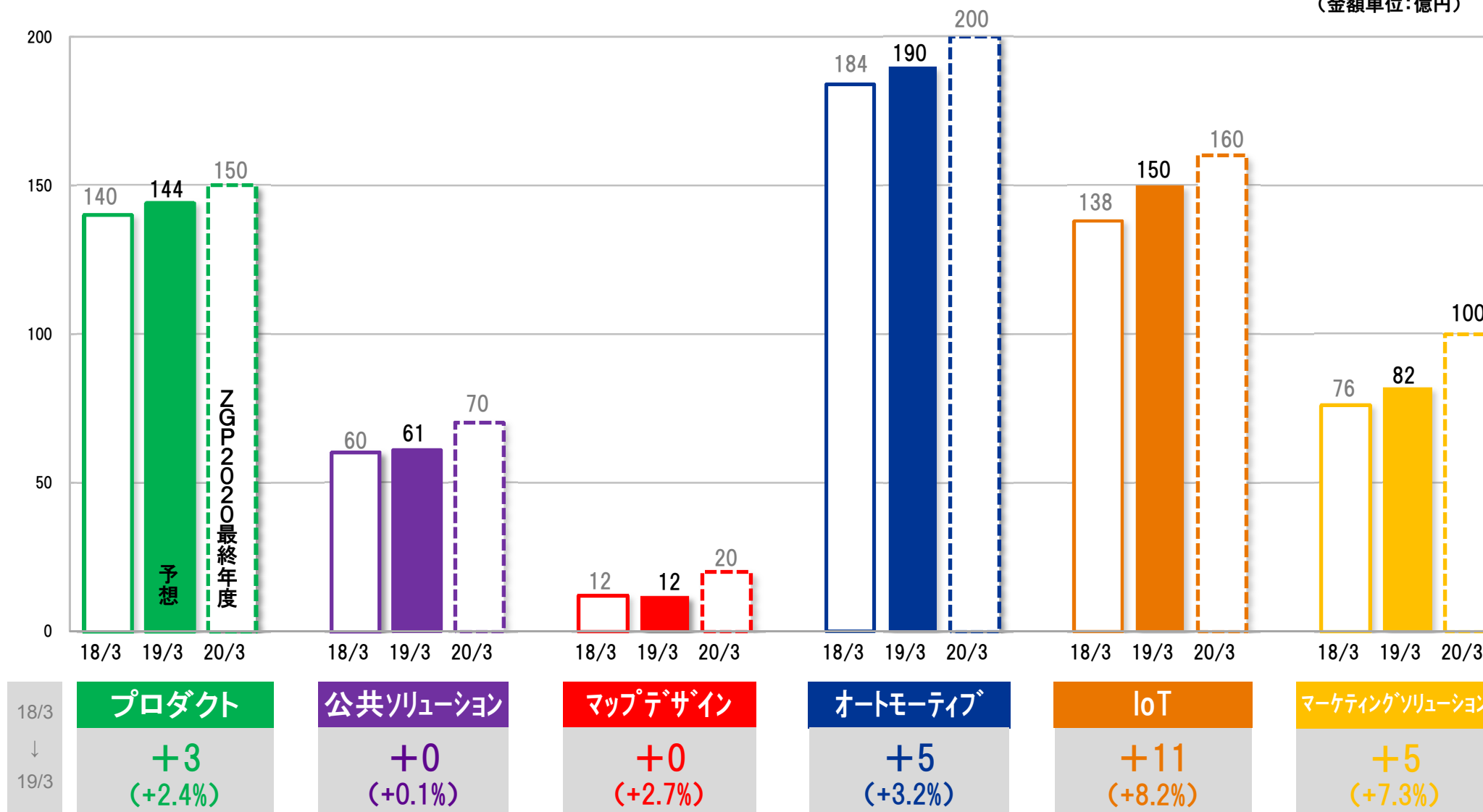
IoT

マーケティングソリューション

3-2)事業別売上高(実績/予想)

2018年3月期 決算説明会

(金額単位:億円)



※2018年3月期(白抜き棒グラフ)及び2020年3月期(ZGP2020最終年度)は、従来の事業区分から組替。

3-2)新事業区分と重点施策 ―プロダクト事業―

プロダクトアウトの商品開発で 住宅地図DBの価値向上

事業内容

- ・主に住宅地図関連商品を利用する事業者に業務効率化や用途に合った商品・サービスを提供
- ・既存データベース活用により安定収益基盤確保

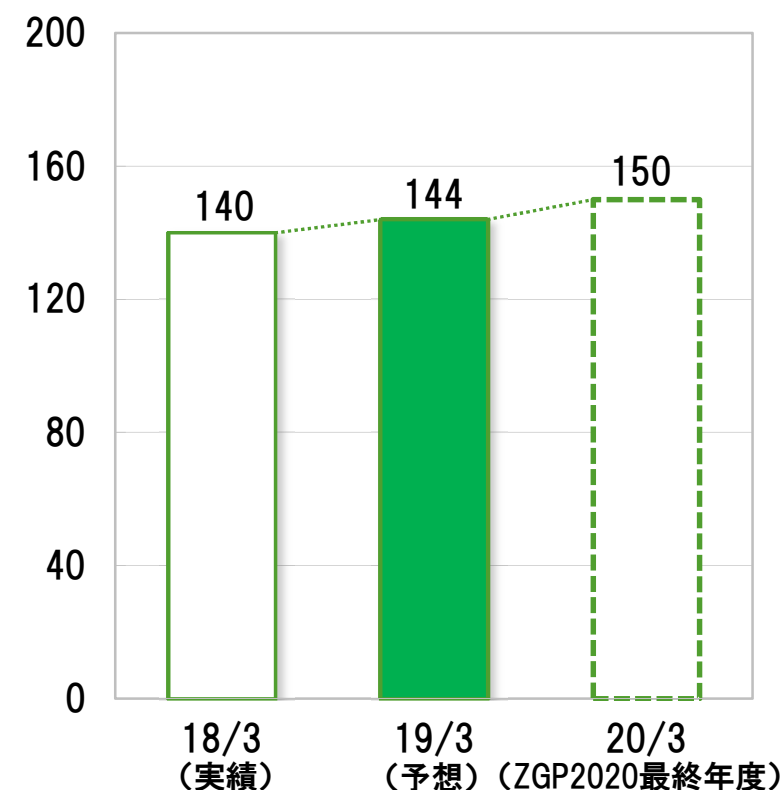
主要商品群

- ・住宅地図帳、ブルーマップ
- ・GISパッケージ
- ・住宅地図データ

重点施策

- ・用途開発による新商品リリース
- ・ストック型商品の展開による安定収益の確保

2019年3月期 売上高予想
前期比 +3億円(+2.4%)



※2018年3月期及び2020年3月期は、従来の事業区分から組替。

3-2)新事業区分と重点施策 ―公共ソリューション事業―

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future

(金額単位:億円)

中央省庁、地方自治体向けの 商品・サービス提供で収益拡大

事業内容

- ・中央省庁、地方自治体の業務をサポートする商品・サービスを提供
- ・自治体プラットフォームを確立し売上拡大を図る

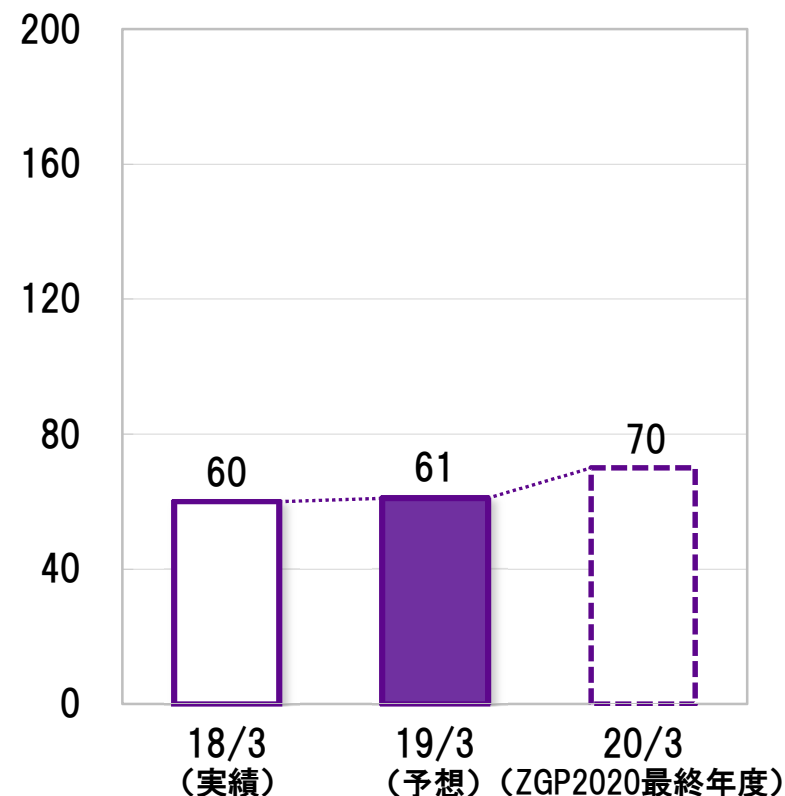
主要 商品群

- ・LGWANに対応した住宅地図関連サービス
- ・消防、警察向け地図データ
- ・災害時支援協定を通じ地域防災や減災を支援

重点施策

自治体業務に特化した専用プラットフォームの確立

2019年3月期 売上高予想
前期比 +0億円(+0.1%)



※2018年3月期及び2020年3月期は、従来の事業区分から組替。

3-2)新事業区分と重点施策 ―マップデザイン事業―

地図が持つ潜在的価値の 具現化による事業ドメインの確立

事業内容

機能的価値だけでなく、感性的価値を重視する
消費者に対して、地図を新たなコンセプトで捉えた
商品を展開

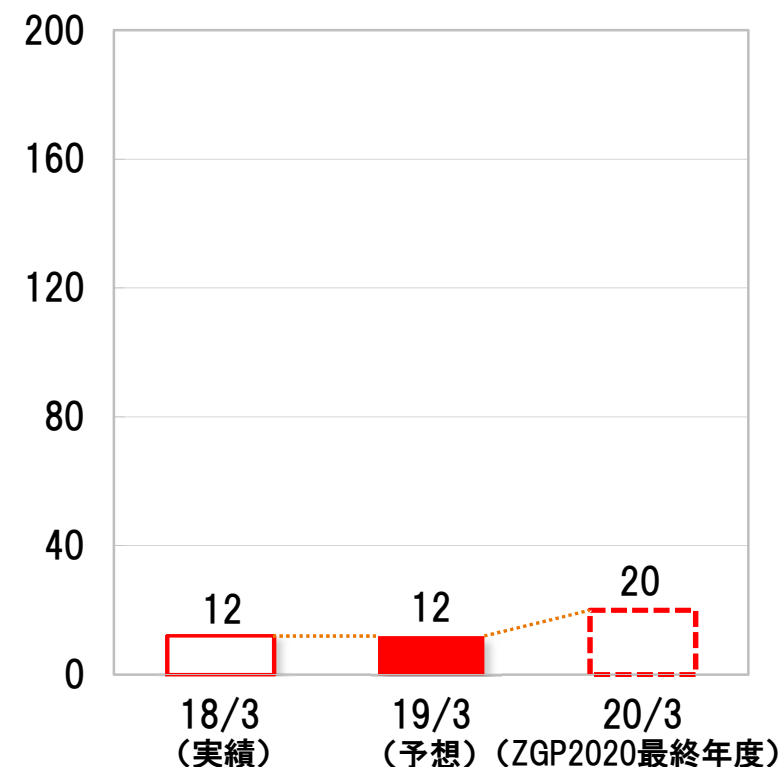
主要 商品群

- ・企画地図
- ・「mati mati」シリーズ(コンシューマ向け)
- ・オリジナル地図柄グッズ(企業向け)

重点施策

- ・商品開発により地図の新たな利用機会を創出
- ・スポーツ・文化イベントでの期間収益の獲得

2019年3月期 売上高予想
前期比 +0億円(+2.7%)



※2018年3月期及び2020年3月期は、従来の事業区分から組替。

3-2)新事業区分と重点施策 ―オートモーティブ事業―

国内外のナビ関連ビジネスの安定化と 自動運転及びADASビジネスの市場創造

事業内容

- ・既存の国内カーナビ用地図データ提供分野でのシェア維持・拡大による安定収益確保
- ・自動運転やADAS、コネクティビティの向上に対応した新規ビジネスでのシェア確保

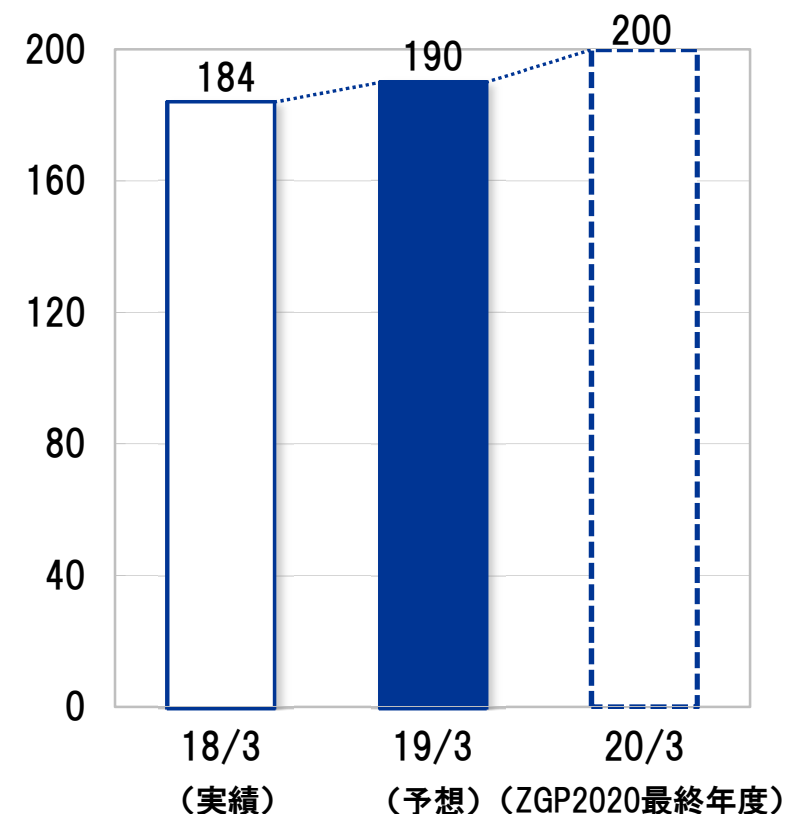
主要 商品群

- ・国内カーナビゲーション用データ
- ・高精度3Dデータ
- ・コネクテッドカー向けナビアプリ

重点施策

- ・AD/ADASビジネス(高速道路)での量産対応
- ・AD/ADASビジネス(一般道)の研究開発

2019年3月期 売上高予想
前期比 +5億円(+3.2%)



※2018年3月期及び2020年3月期は、従来の事業区分から組替。

3-2)新事業区分と重点施策 ―IoT事業―

位置情報ビジネスと IoTソリューションの融合

事業内容

IoTによって収集されたビックデータを活用する企業との連携による、位置情報サービス、ソリューションの提供

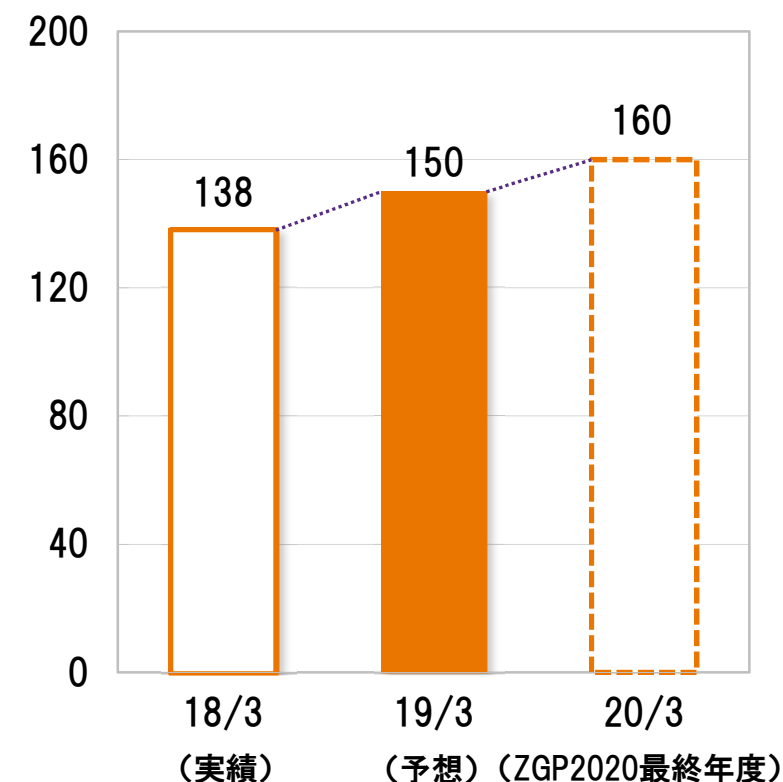
主要 商品群

- ・地図情報とビックデータ(プローブ情報)
- ・地図情報と土地、建物情報
- ・地図情報とAIソリューション

重点施策

- ・企業(不動産、物流、交通、インフラ、サービスプロバイダー等)との連携によるビジネス拡大
- ・ドローンビジネス収益化
- ・自動運転用地図技術を活用したMaaSビジネスの創造

2019年3月期 売上高予想
前期比 +11億円(+8.2%)



※2018年3月期及び2020年3月期は、従来の事業区分から組替。

3-2)新事業区分と重点施策 —マーケティングソリューション事業— ZENRIN

2018年3月期 決算説明会

Maps to the Future

(金額単位:億円)

マーケティングソリューション ビジネス確立と拡大

2019年3月期 売上高予想
前期比 +5億円(+7.3%)

事業内容

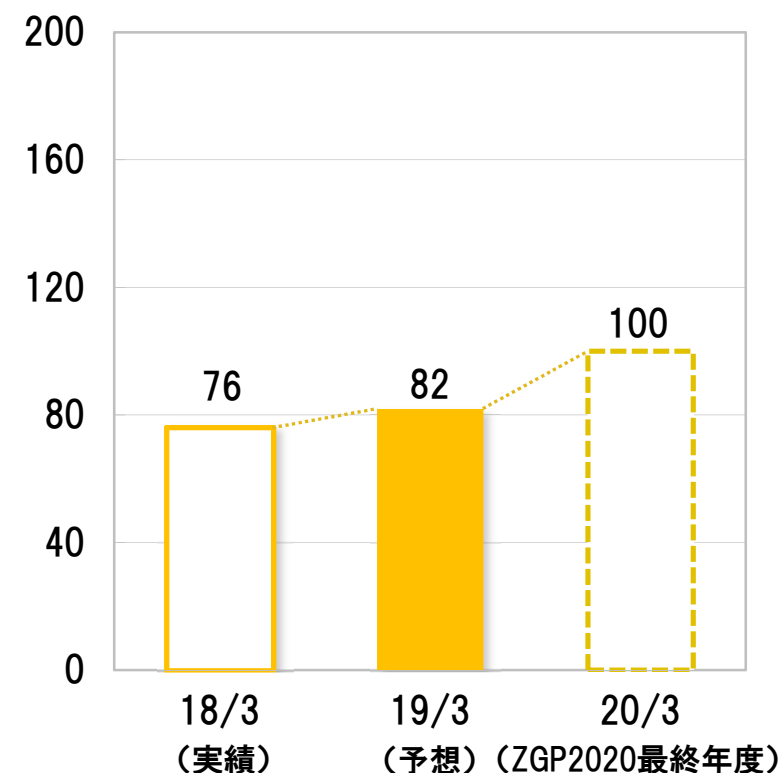
SNSの進化やデジタル革命により、消費マインドが大きく変化するなか、効果的なマーケティングソリューションを提供

主要 商品群

調査、分析、企画、制作、展開、効果検証など一連のマーケティング施策を支援

重点施策

グループリソースを活用した、マーケティングソリューションビジネスの創造と事業拡大

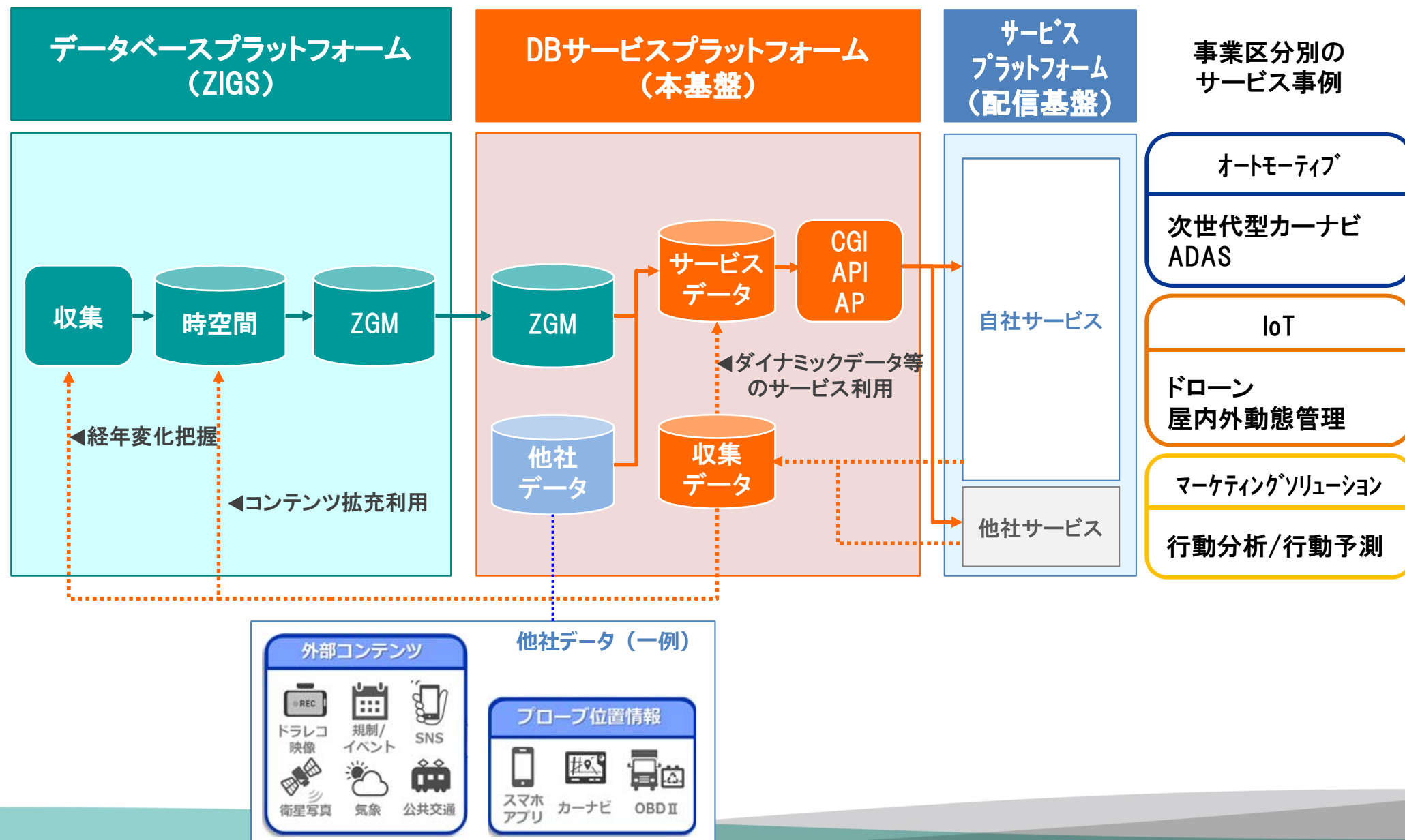


※2018年3月期及び2020年3月期は、従来の事業区分から組替。

3-3) 時空間情報システムを活用した商品/サービス基盤の開発

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future



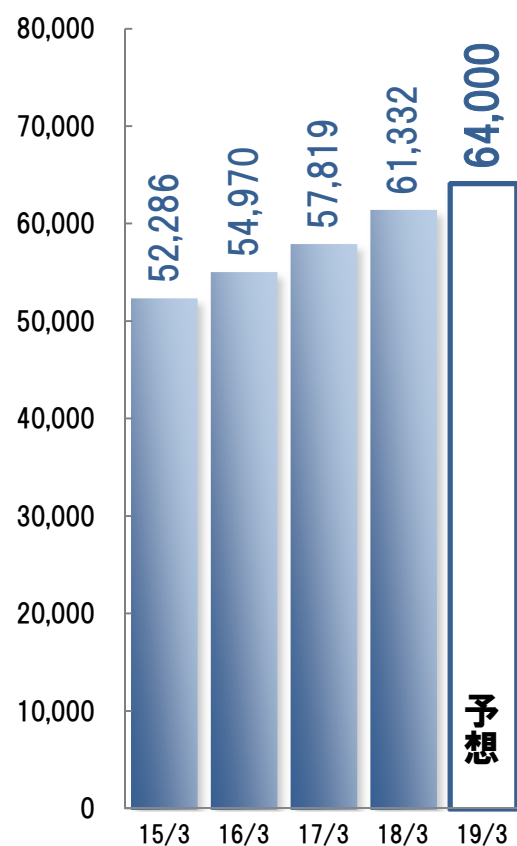
4. Appendix

2019年3月期 業績予想

- 1) 売上高・利益の推移
- 2) セグメント情報
- 3) 設備投資額・減価償却費・研究開発費
- 4) 四半期売上高構成比推移
- 5) 事業トピック

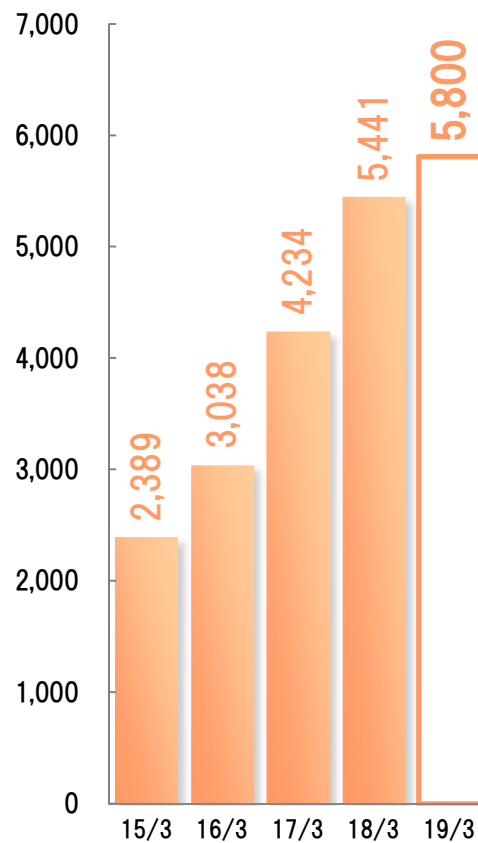
1)売上高・利益の推移

売上高



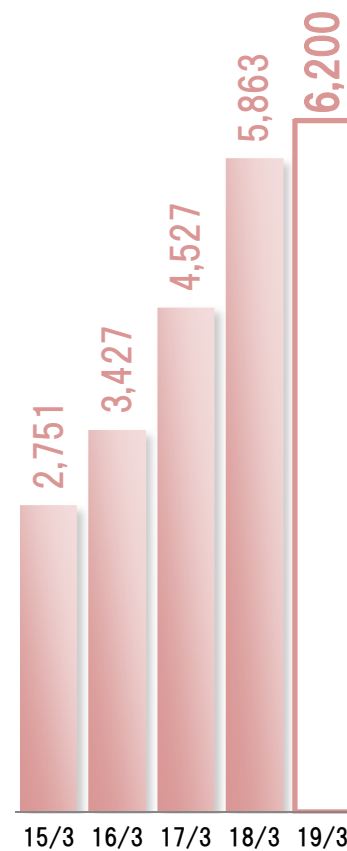
4期連続増収/過去最高

営業利益



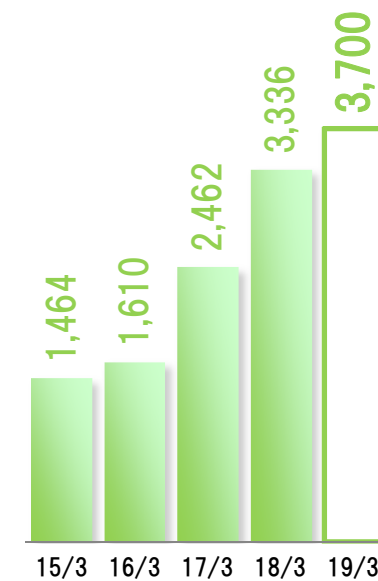
4期連続増益

経常利益



4期連続増益

親会社株主に帰属 する当期純利益



5期連続増益

2-1)セグメント情報

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future

売上構成
比率

83.5%

1. 地図データベース関連事業

主要品目等：住宅地図帳、住宅地図データベース
国内外カーナビ用地図データ
スマートフォン向けサービス
各種メディア・デバイスへの地図情報提供など



6.4%

2. 一般印刷関連事業

主要品目等：商業印刷



10.1%

3. その他

主要品目等：仕入商品、デジタルサイネージ、
マーケティングソリューションの提供

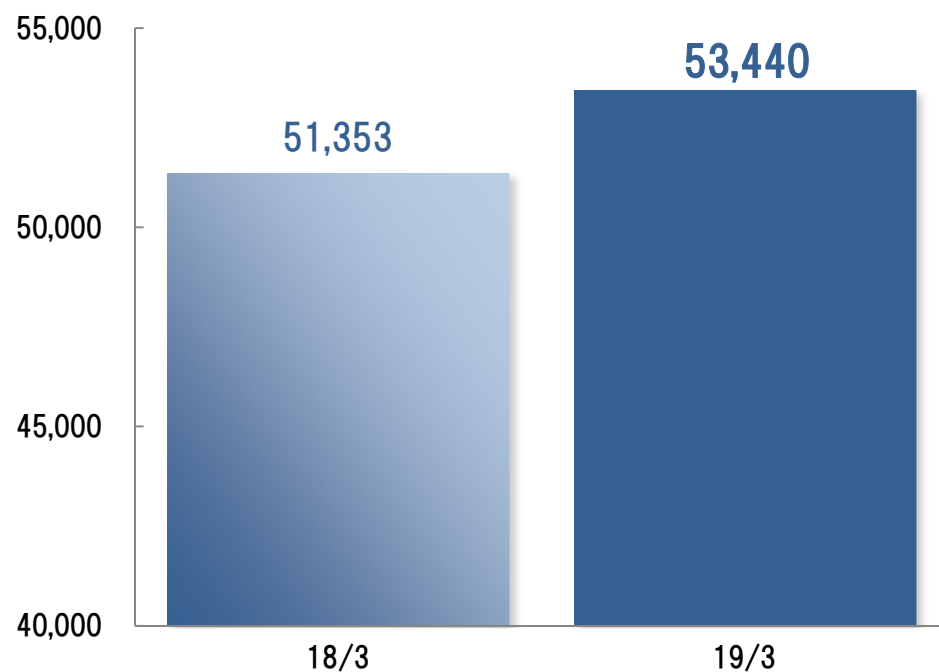


2-2)地図データベース関連事業

売上高

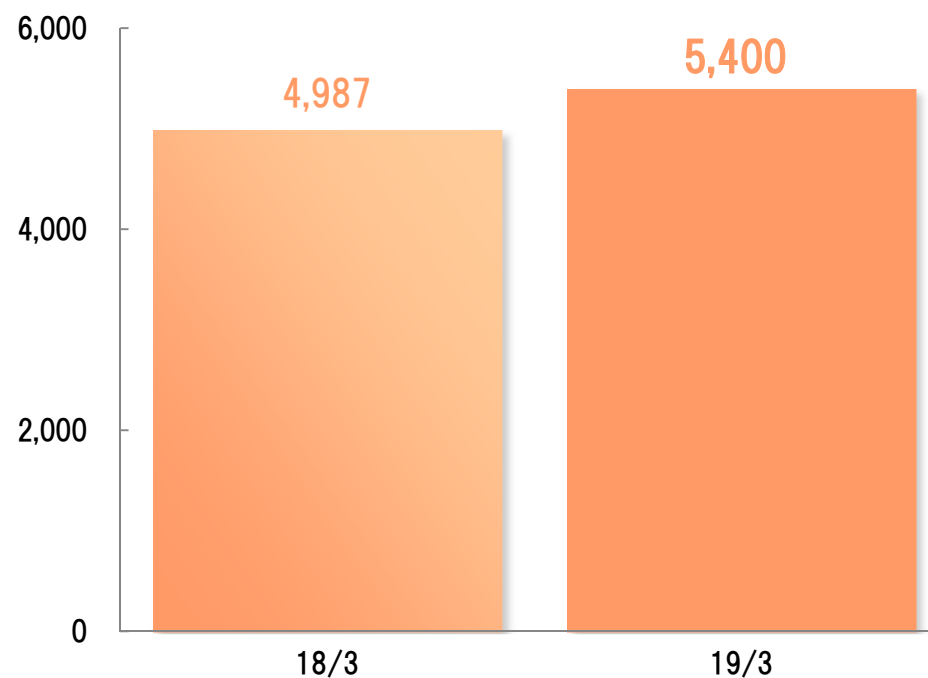
前期比

2,086増加(+4.1%)



営業利益

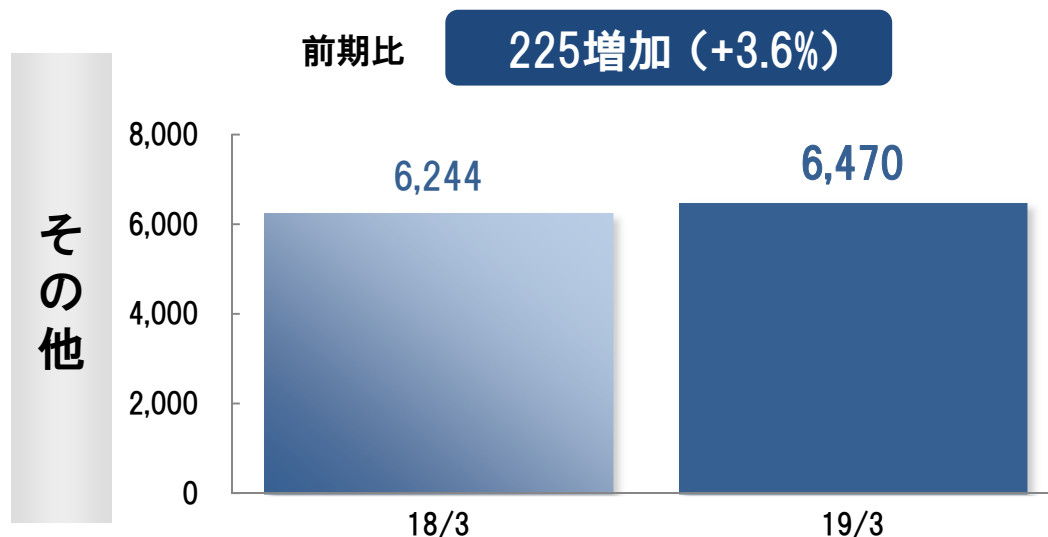
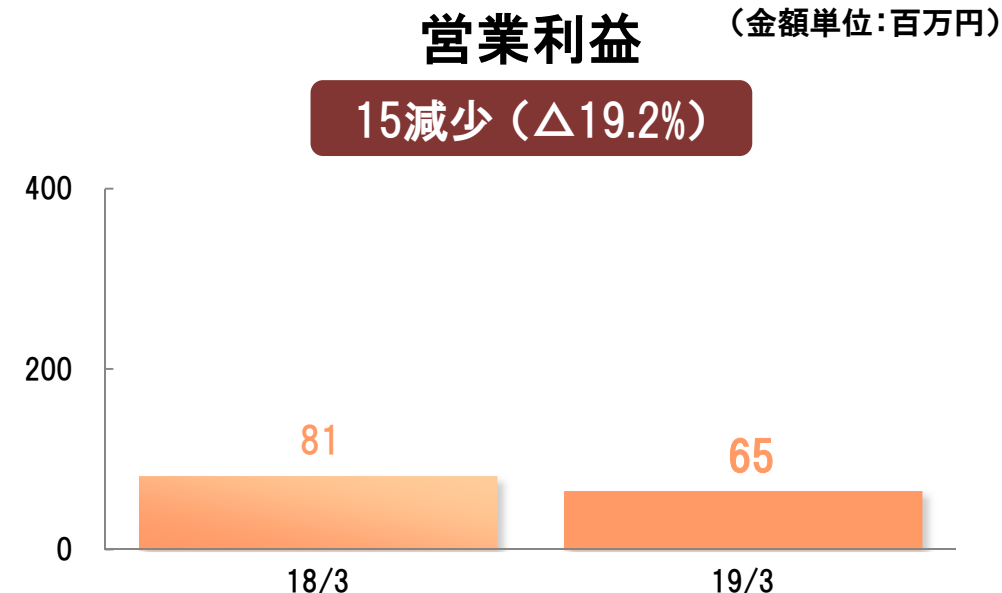
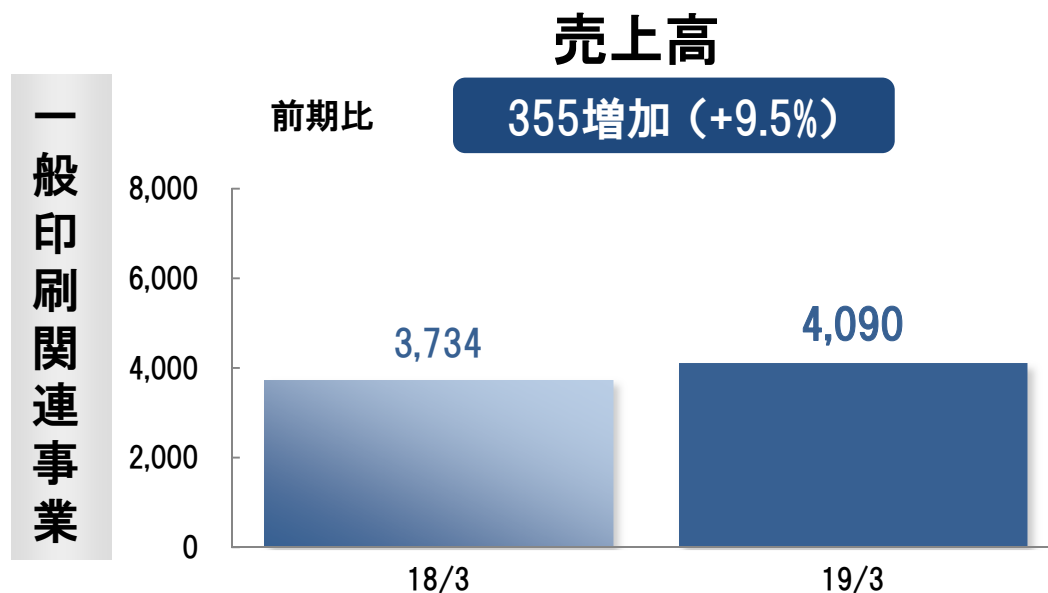
412増加(+8.3%)



2-3)一般印刷関連事業・その他

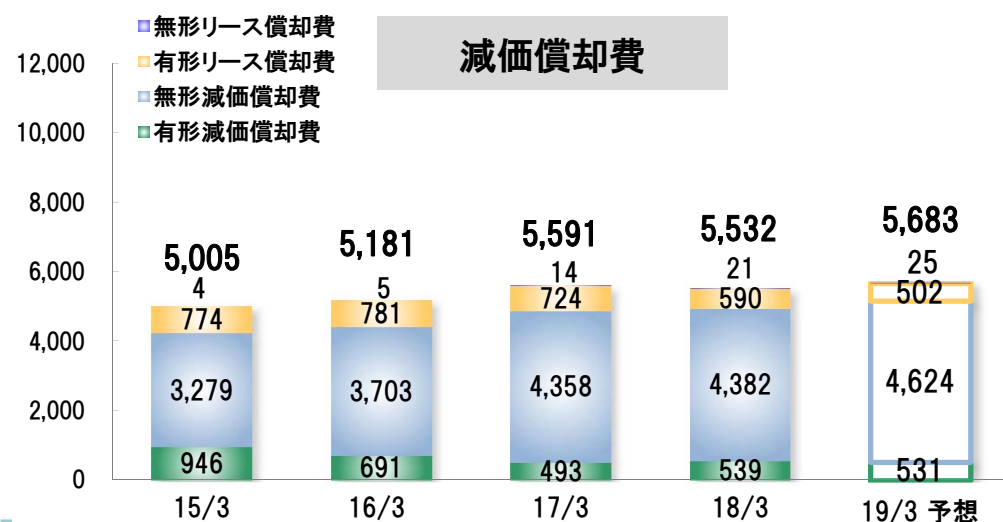
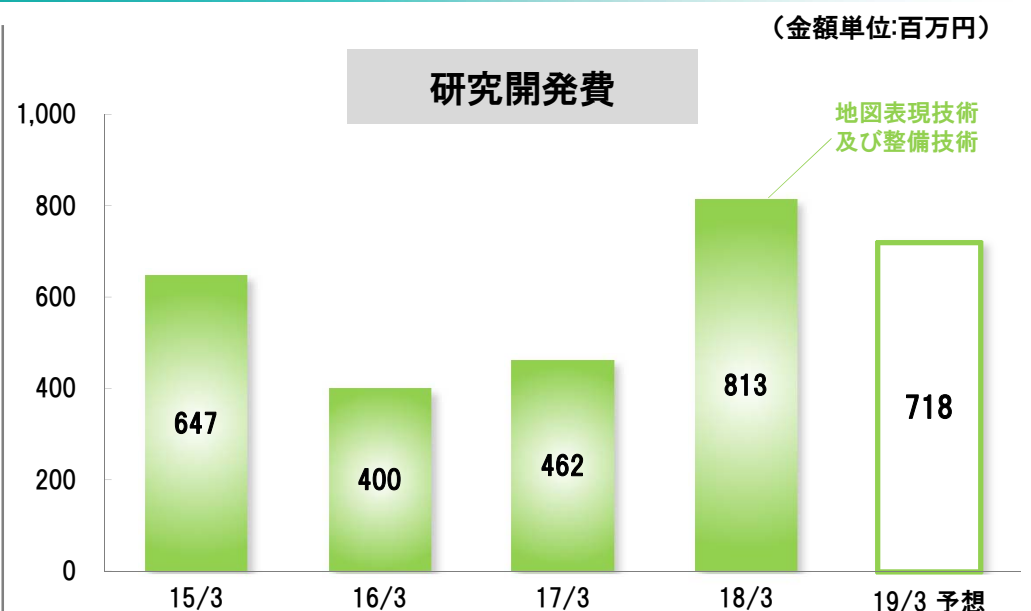
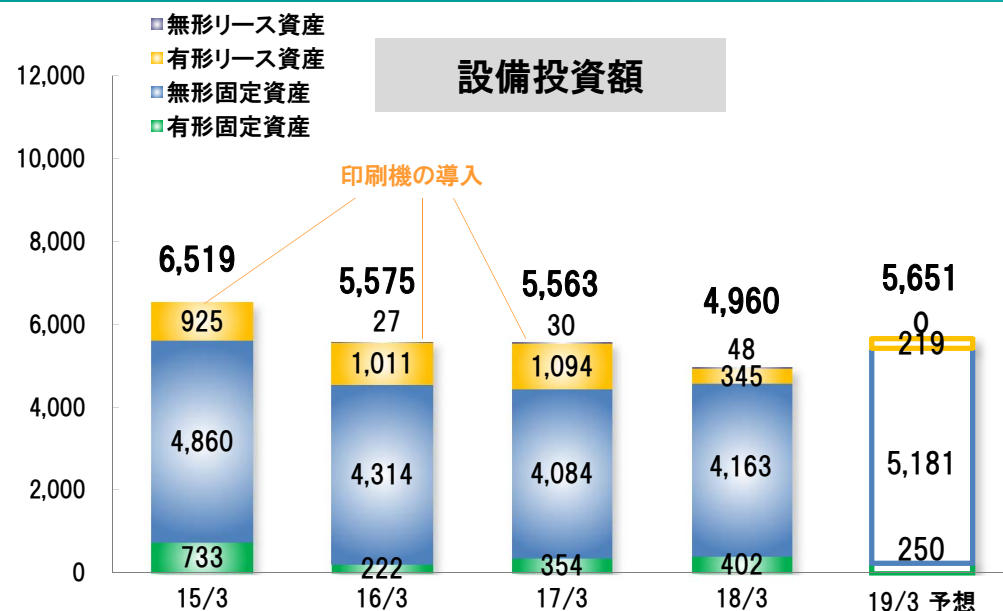
2018年3月期 決算説明会

(金額単位:百万円)



3)設備投資額・減価償却費・研究開発費

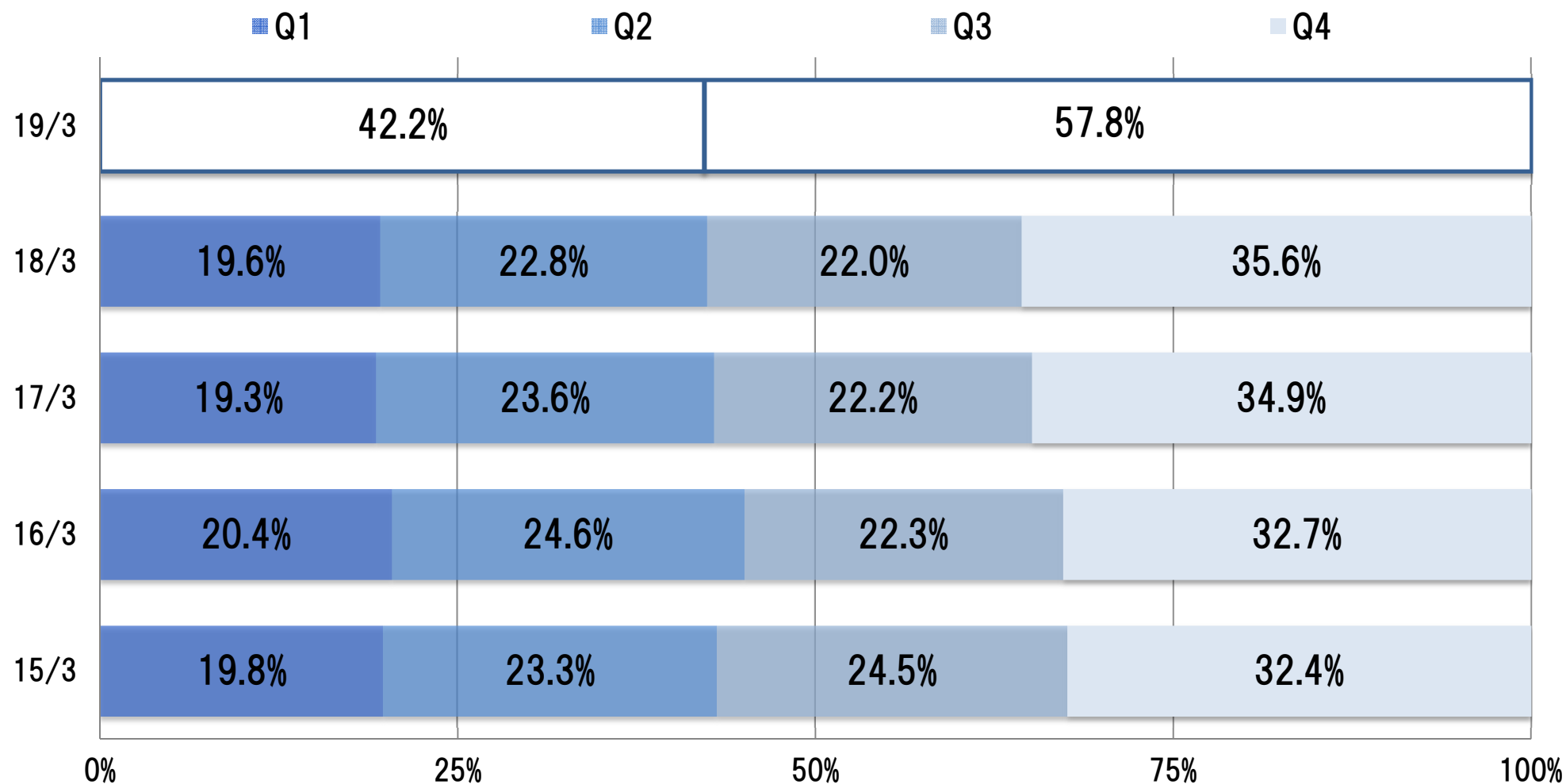
2018年3月期 決算説明会



4)四半期売上高構成比推移

2018年3月期 決算説明会

ZENRIN
Maps to the Future



(2018年1月30日)

■ タイ国バンコク市で行う準天頂衛星システム「みちびき」を活用した車線単位の高精度ルートガイダンスシステムの実証事業に参加

当社連結子会社（株）ゼンリンデータコムは、豊田通商(株)がバンコク市で行う準天頂衛星システム(QZSS)*1「みちびき」と衛星信号補正データ生成システム「MADOCA」*2を活用した、車線単位の高精度ルートガイダンスシステムの実証事業に参加。

(本実証事業は日本貿易振興機構(JETRO)の「日ASEAN新産業創出事業」第二回公募採択案件)

＜実証実験概要＞

バンコク市内を走行するタクシープロブカーに、準天頂衛星「みちびき」(QZSS)からの信号とMADOCAの補正データを受信可能な「QZSS対応高精度多周波マルチGNSS*3受信機」を搭載して実施

GPS単独測位に加えて、QZSSやMADOCAなどを活用して収集するセンチメートル級の位置情報などのプロブ情報を基に、車線単位の高精度交通渋滞情報の生成、高精度ルートガイダンスを配信するための各システムなどの技術評価を行い最適なルートの提供を目指す

*1 QZSS(Quasi-Zenith Satellite System)

準天頂衛星システム「みちびき」。
準天頂の衛星が主体となって構成されている日本の衛星測位システム
(衛星からの電波によって位置情報を計算するシステム)

*2 MADOCA(Multi-GNSS Advanced Demonstration tool for Orbit and Clock Analysis)

宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発した衛星信号補正データ生成システム。
複数GNSS*3対応の精密軌道クロック推定ソフトウェア

*3 GNSS (Global Navigation Satellite System)

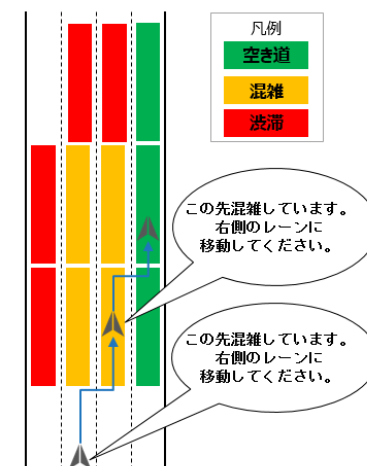
全地球航法衛星システム。GPS・GLONASS・Galileo・準天頂衛星(QZSS)などの衛星測位システムの総称

＜ゼンリンデータコムの役割＞

交通規制や渋滞など状況に応じたルート探索機能や、レーンごとに色分けされた高精度な交通渋滞情報の表示と音声ガイダンスを行うナビソフトの提供



高精度交通情報を考慮した
案内イメージ



レーンごとの渋滞度を考慮した
音声案内イメージ

lot

(2018年2月19日)

■ 観光地情報データベース「観光コンテンツ」が ANA国内線「ANA Wi-Fi Service」に「絶景100選」として採用

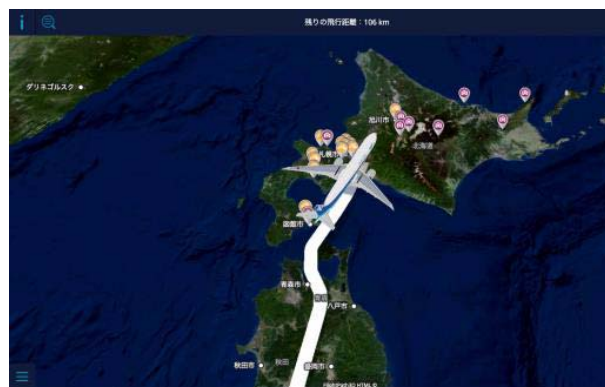
当社が整備・提供する観光地情報データベース「観光コンテンツ」が、全日本空輸(株)(以下、ANA)の国内線「ANA Wi-Fi Service」の機内限定コンテンツ「絶景100選」として採用。

2018年4月1日以降順次リニューアルする「ANA Wi-Fi Service」のマップ機能のコンテンツとして提供開始。また、2018年後半より、“一度は行ってみたい日本全国100箇所”の観光地情報をANA機内限定で提供予定。更に、今後国内線及び国際線の地図の地名情報の監修を当社が行う予定。

<「絶景100選」のイメージ>



「ANA Wi-Fi Service」



マップ機能の航路図



「絶景100選」のイメージ（北海道上川郡美瑛町の「青い池」）

<「観光コンテンツ」の概要>

日本全国の観光スポット約42,000件の情報に加え、プロカメラマン撮影のハイクオリティな画像を含む約113,000枚の画像をデータベースとして整備。

観光スポットの位置情報や紹介文、施設の営業時間や定休日などの基本情報や、観光スポットの「おすすめ観光コース」や、日本全国の世界遺産に関する情報、温泉地の泉質や効能、泉温など、道の駅ではイチ押し商品などをオプションとして整備。

lot

(2018年3月8日)

■ 地図データから制作するオリジナル地図柄グッズを全国展開し マップデザインビジネスを強化

2018年3月8日から地図ステーションリー「mati mati」をはじめとしたマップデザインビジネスの一環として、ゼンリンの地図データをデザインとして活用したオリジナル地図柄グッズの受注を全国規模で開始。企業や自治体、教育機関など、あらゆる業態のノベルティや商品のデザインとして利用可能。クリアファイル・メモ帳・ふせんなどが制作でき、価格はクリアファイル5,000部で389,000円(税別)などアイテムやデザイン、部数に応じて対応可能。

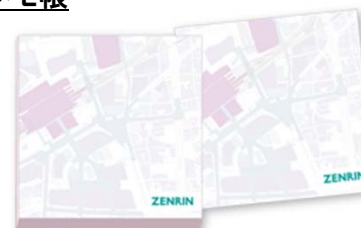
<オリジナル地図柄グッズ>



クリアファイル



メモ帳



ふせん

マップデザイン

ZENRIN

Maps to the Future

株式会社ゼンリン <http://www.zenrin.co.jp>
コーポレート本部 経営管理・IR部
IR問い合わせMail : zenrin-ir@zenrin.co.jp